

新政会、伊藤文博です。

本日は、3点について質問いたします。

1、行政改革のうち計画策定の外部委託について。

行政改革の必要性が言われて久しく、糸魚川市においても計画し順次進められています。しかし、毎年の予算。決算、事務報告をみると、いまだに計画策定の委託料が多いと感じます。基本的な考え方を伺います。

- (1) 内部での計画策定か外部委託かの判断基準は何か。
- (2) 外部委託のメリットとデメリットは。
- (3) 内部策定のメリットとデメリットは。
- (4) 各委託の計画段階と成果品受領段階、事業の執行段階における評価はどのように行っているか。

2、新幹線開業に向けた駅周辺の活性化についてであります。

新幹線開通を4年後に控え、新幹線活用による市街地活性化の方向性が具体的に示されなければならない時期になっています。

新政会では、11月に東洋大学の石井晴夫教授との新幹線関連問題についてのヒアリング、佐久平駅周辺整備に関する調査、仮称新上越駅周辺整備計画に関する調査を行ってきました。

郊外に建設の両駅に比較して、糸魚川駅は中心市街地の現駅に併設するという条件の違いがあり、ここに周辺整備。活性化計画の大きな差異が見られます。田園の真ん中に建設された佐久平駅と糸魚川駅の間接的モデルが仮称新上越駅がありますが、佐久平駅、新上越駅の両方とも駅周辺開発の意図がはつきり読み取れます。

糸魚川市は各区域をどのように活性化していくのかについて伺います。

- (1) 商業区域の活性化は。
- (2) 住宅区域の開発は。
- (3) 車両交通の利便性向上は。

3、健康づくりについてであります。

健康づくりセンターの建設工事も順調に進み、来春のオープンが待ち遠しく感じられます。糸魚

川市においては、これに関わらず健康づくり運動は活発に進められています。

このことは、健康づくりセンターが市域全体のセンター機能を発揮する仕組みとはならず、別々に動いていくことにもなりかねないことを示唆しています。

指定管理者制度を導入された健康づくりセンターが、センター機能を発揮するための取り組みについてを中心に伺います。

- (1) 各地区での運動教室と健康づくりセンターでの活動はどのように連携を図るのか。
- (2) 健康づくりセンターでの個人データ管理はどのように行い、各地区での個人データの管理とどのように連携を図れるようにするのか。これは両方利用の場合などもあります。
- (3) 運動メニューの連携はどのように図るのか。
- (4) 公設民営方式への移行についてどのように考えるのか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、コンサルタントが持つ高度な技術、専門的な知識を活用したほうが、効率的であるかどうかをもつて判断基準といたしております。

2点目につきましては、外部の専門的な知識、技術の活用により、決められた期間で効率的に作業ができるメリットがある一方、委託に伴うコストがデメリットと考えております。

3点目につきましては、直営で行うことにより委託料の削減と、職員の専門知識の習得が図られますが、その反面、知識の習得や調査等のため作業が長期化すること、また、それにかかる職員の人的コストの発生が挙げられます。

4点目につきましては、中間報告を受けるなど進捗状況を確認し、成果品、受領段階においては、仕様書どおり成果となっているか確認いたしております。

また、事業の執行段階においては計画との整合性を確認し、必要に応じて事業や計画の見直しを行っております。

2番目につきましては、北陸新幹線糸魚川駅周辺整備構想を策定し、平成13年度にその北陸新幹線糸魚川駅周辺整備構想を策定いたしまして、鉄道で分断される市街地の機能分担による一体的なまちづくりを目標に掲げ、南北それぞれの機能と将来の方向性を検討し、土地利用構想を立てております。

1点目につきましては、駅周辺整備構想では駅北地区を中心商店ゾーンと位置づけており、現在の

まち並みを生かしながら、県道糸魚川停車場線の電線の地中化や駅前アーケードの改修を促進いたしております。

また、周辺商店街への来客増を図るため、まちづくり団体の誘客活動を支援するとともに、商店街が協働で行うイベントや創業に対する助成など、また、にぎわいの創設の支援をいたしております。

2点目につきましては、整備構想では駅南地区を既存住宅地ゾーンに位置づけをしております、新たな開発は予定いたしておりません。

3点目につきましては、整備構想をもとに中央大通り線の整備促進に取り組んでおり、市道白馬通り線から国道148号への接続を残すのみとなっております。

既に駅南線や南北駅前広場、パーク&ライド駐車場の整備により、駅利用者の利便性向上を図ることといたしております。

3番目の1点目につきましては、現在実施しております各地区の教室におきましては今後も継続し、その内容や指導者の育成などについては指定管理者と十分な連携を図り、一体的に推進してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、健康づくりセンターに対しては身体状況や運動の履歴を個人記録カードで管理をし、それをデータベース化し、効果判定に活用してまいりたいと考えております。

また、各地区教室のデータも共通の様式などにいたしまして、共有化を図りたいと考えております。

3点目の運動メニューの連携につきましては、好評であるものについては相互で取り入れ、また、新たなメニューを作成する場合には、一体的に取り組んでまいりたいと考えております。

4点目の公設民営方式につきましては、当面は指定管理者による運営とし、状況を見ながら今後検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部。課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

順番を変えさせていただいて、3点目の健康づくりから質問いたします。

この問題については、私は所管の委員会の所属でもありまして、いろいろと意見を言わせていただきながら、基本的考え方は聞かせていただいているところであります。したがって、きょうはそこからもう1つ踏み込んで、具体的にお話を聞かせていただきたいということでもあります。

まず、市内で展開される健康づくり運動として考えられるものをちょっと挙げてみますと、健康づくりセンターでの運動、それから地区運動教室、水中運動、それから個々に行っているウォーキング、介護予防のための運動、それから各種スポンなど、いろいろな運動が個人の好みによって展開されているということだと思いますが、健康増進という観点で考えた場合、今挙げたものからある程度限定されるかもしれませんが、介護予防との連携などというのはその代表的な例だと思います。

庁内の横の連携が必要な部署というのは、健康増進課から見てどこどこがあるのかというところを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君..)

お答えいたします。

今ほどご質問がありました横の連携でございますが、介護につきましては福祉事務所、スポーツ関係では生涯学習課等が考えられると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今いきなり聞いて、どのぐらい挙がってくるかなということだったんですけど、これによって、ふだんから連携がどのように考えられていることがわかりますね。こども課も重要な連携先であろうと、ありとあらゆる課が絡んでいくんですね。

きのうの子ども生活リズム改善全国フォーラムでも、隣の体育館で親子で参加、ボール遊びで体力づくりが行われていましたよね。日本一の子どもを育てるのに大きく関連してくると。子ども一貫教育の策定、健康づくりセンターのサービス開始、そして来年度予定されている第5期介護保険事業計画の検討など、みんな絡んでくると思うんですよ。

これを機に、庁内の健康に対する取り組みの連携を高める必要があるんじゃないかというふうに思うんですが、そこについて今以上に、今の状況じゃなくて、もっともっとそこに考えを及ぼして、やっていかなきゃいけないんじゃないかということについてどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君..)

お答えいたします。

健康づくりセンターでは、運動を取り入れた健康づくりの拠点施設ということでスタートするわけですが、今ほど質問がありました介護関係、あるいは子ども、それぞれのスポン、これらは運動ということで連携していかなきゃいけないというふうに考えておりますので、今後は健康づくりセンターのオープンに合わせて、そういう連携も十分図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

連携を図る考え方はいいんですよ、具体的にどうしていくかですよ。だから庁内に、またそういう連携会議みたいなものをつくって対応していくのか、何か考え方でいいですよ。こうやるというのは、まだ決まってないことですから言えないでしょうけど取り組みの方向性を、具体的なところを、ちょっと例として挙げながら答えてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君..)

お答えいたします。

ただいま子どもの動きづくり等の運動もやっておるわけですが、これらは実際、うちの健康運動指導士がこども課と連携して、各保育所あるいは学校等に出向いて、そういう指導等を行っております。そんなような例を挙げながら、またそういう連携を図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

対象市民によって担当部署が変わるのでは、市民から見て非常にわかりにくいんですね。サービスを受ける市民側から見て、使いやすさを考える仕組みが必要になってくると思います。それがまた業務の効率化にもつながってくる。効果的に業務が遂行されるということになる。職員のやっぱりモチベーションを高めて意識を改革して、貪欲な姿勢で臨むべきだと。

さっき言われた大和川保育園の発表の中にもありましたけど、その部分には健康増進課の職員が絡んでいますよね。それは働きかけがあったりしたときに、そういう連携がとれるということではなくて、常に連携を模索するような仕組みが必要だろうということを僕は言ってるわけです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

今後はこの健康づくりセンターがオープンするわけですが、常にそういう連携を図るような体制ですね、そういう連絡会議になるのかちょっとわかりませんが、そのような体制を組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君…)

今の伊藤議員さんのご質問にお答えいたします。

私ども企画課では庁内でいろいろな課題、あるいは問題が出てくる場合があります。当然、1課

のできるものがあるかもしれませんが、多くは庁内の複数の課が関係しないと、なかなか解決ができないといった課題が出てまいりますので、そういった場合には私ども企画の調整係が中心となって、関係すると思われる課を集めまして、その対応策を考え、それぞれの部署の力を発揮できるように、私どもが調整をしていくといった形になっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の話は課題があって、それに複数の課が絡んできて、そうでないと解決しない問題じゃないんですよ。そうじゃなくて、健康増進課であつたらやったで済んじゃう仕事なんです。そこに一步踏み込むためには、そういう仕組みが必要だろうということを言ってるわけですよ。だから必要にかられてやるんじゃないくて、もっと高いサービスを求めてやっていくっていう話でしょう。課長、もう1回。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君..)

お答えいたします。

先ほど申したとおり、そういう恒常的な連携をする場をつくりまして、一体となって取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

当然、今、健康増進課長がお答えしましたように、健康づくりという形では健康増進課が主体となって、いろいろ庁内に働きかけも必要だと思っております。

先ほどちょっとお答えしましたのは、非常にどうにもならないという課題が出た場合に、私どもが中心になって進めるといったことをごさいまして、主体的には、その担当課が中心になって行っていただくというのが、まず第一でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

姿勢の話をしたんです、どこの課が主体かじゃないです。いいです、わかってられると思うんで。個人データの管理ですが、委員会で上越の民間施設を視察したときには、やはり個人データをほかの人に管理されることを非常に嫌がる人がいるというような話もありましたけど、豊岡市のシステムは非常に効率のいいシステムで、本人が運動することによって、自動的にデータがとれるというようなことがありましたね。考えると、問題はデータの使い方なんですね、とり方じゃなくて。基本的には、そのデータを利用して、本人が考えて運動していくということだと思うんですけど、それ以上の部分は、本人の意思で指導を受けていくというような仕組みが必要だと思うんです。これはセンターのことだけじゃなくて、ほかの部分もそうなんですけど、この辺の取り組み姿勢はどういうふうに考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

データにつきましては、これは個人ごとのメニューを作成したり、あるいはそれに基づく実践による効果判定をしたり、これは非常に重要なものと認識しております。今、議員ご指摘のように最近フィットネスクラブでも、なかなか個人情報の管理の問題がありまして、希望しない方もいらっしゃるというふうに聞いております。

当センターでは個人のご意向に沿うんですが、なるべくそうしたデータをとらせていただいて、今後の効果判定、実践の結果、施設全体が何年後かに、どういう効果があったのかという、長い意味でもそういうデータというのは必要になってくると思いますので、なるべく皆さんにお願いしてデータをとっていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

データのことに関しては、完全に1つのシステムでデータ管理できればいいんですけど、やっぱりいろいろ運動形態が違うんで、ただ、そこで共通してあっていけるように、先ほどの市長の答弁のようにやっぱり方式を工夫して、基本的なところは管理できるようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

民営方式ですが、市民厚生常任委員会では初日の委員長報告にもありましたように、PFI方式について指定管理者のノウハウを取り入れながら、検討したいという答弁をいただいております。

この辺の考え方を、もう少し具体的にお答えいただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

委員会でご視察に行ってくださいました豊岡市では、これは当初の計画段階から、例えばそういうフィットネスを運営する業者も入りまして、設計から計画をしております。実際運営に当たりまして、その業者が実際にもう運営しておるということで、かなりこの健康づくりセンターの方式とは大分違うものがございます。

そういう意味で、豊岡市は指定管理料が無料だとか、そのような形で財政負担的には非常に豊岡市としては、そういう方式であっておりますので、財政負担が軽減されているということでございます。うちの施設では、今もう指定管理という形で始めようとしてますもんですから、これを将来、例えば公設民営でする場合には、やっぱり問題点が若干出てくるんじゃないかと。

例えばサービスの内容とか、それが硬直化していく懸念。それから今、指定管理料を払うということで、市民の皆さんの利用が低料金できるという予定でございまして、この辺は料金が高額になりはしないか。あるいは、健康づくりに対する市の意向が十分に反映できるかどうか、その辺が心配なところでございまして、今後、市長答弁で申し上げましたように時期を見て、また検討はしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今言われたように、とりあえず指定管理方式でスタートする中で、今後、経営改善を行って指定管理料を縮小していく。可能であれば言われた豊岡のように、指定管理料を伴わない本当の民営方式にもつていけるように努力するという方向性が、やっぱり必要だろうと思います。ただ、問題点はいろいろありますよ。問題点はありますけど、それはストレートにできない理由にはならない、ハードルであることは確かですけど。

その段階で先送りされたプールについて、これについても公設民営方式であっていくということに踏み込めるんではないかと。公設公営方式では維持管理費が非常に高くて、プールの建設は見合わすべきだということで先送りされたわけですけど、ここにプールを実現する1つの方向性が見えると思うんです。逆に言うと、そうでなきゃなかなかプールの建設は難しいということが言えますね。そこについて、プールも視野に入れた話で答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長伊奈晃君登壇〕..

○健康増進課長(伊奈晃君)

お答えいたします。

プールにつきましては、今、先送りということになっておりまして、仮に将来的に建設するという方向性が出ましたら、やっぱり豊岡方式のような方式が、いいのではないかとこのふうには思っておりますが、その辺、今後検討していきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の点について、市長、お考えをお聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

確かに財政的な部分があるわけですが、今、代用できるものがあるわけですので、それを使いながら進めていかなくちゃいけないと思っていますし、やはり基本は健康というものを、今、議員ご指摘いただいているわけですが、そういったところがどのように出ていくかというものを明確にすることも大事であり、また、それが市内全域に普及して、その重要性なりもやはり高めていって、初めてそういった施設が必要になるんだろうという形の中で、今はこの健康づくりセンターを中心に、健康というものの普及啓発に努めながら進めていきたいというのが、私の今の考え方でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

民営化というのを絡めて、プールというものを検討していく方向性ということについて、具体的にお答えいただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君..)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

今、私が答弁したのは、それに向かってということでございますので、今やはり一番そのやり方が、そういう方向がいいのだろうという気持ちの中で、そのものに調査をしながら進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それでは、計画策定の外部委託についてに移ります。

委託の決定について、担当課と財政部門で意見の分かれるとこだと思います。担当課は委託したい、財政課は、いや、何とかやれんかという話。これは明確な基準を設けて、全部が全部それでスパッと割り切れるかどうかわかりませんが、設けて判断の材料にするべきではないかというふうに思うんですね。

人間は易きに流れます。委託したほうが楽だ、内部策定には苦勞が伴う。しかし、苦勞は力になりますよね。感覚的に判断をするのではなくて明確な基準をもとにして、さまざまな要素を判断につけ加えて判断できるような仕組みが必要だと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり..〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

まず、計画等を外部委託すると、あるいは内部委託にするという判断なんでございますけれども、明確な数値というのは私ども持っておりませんが、まず、内部でそういったことができるかどうかという点を、十分検討しなければなりません。仮に内部でできるとした場合であっても、例えば一定の期限までにそれができるかどうか、あるいはそれをした場合に、要は他の事務事業がおくれたり、あるいはできなかつたりといったことがないかどうか。それから、外部に仮に委託するとした場合、どれぐらいの費用がかかって、その費用に対して十分な効果が得られるのか。あるいは、その事業を十分計画ができる外部のものがあるかどうか。そういったいろいろな面からしていかなければならないし、今ほど議員さんがご指摘のように仮に外部に委託したとしても、当然、私ども市の職員は十分勉強して、相手方の成果を十分チェックできる体制にあるかどうか。この辺もやっぱり外部委託を判断する基準であるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

聞けばそういうふうに答えますよね。ただ、それが仕組みとしてちゃんと、1つ1つの委託について検討されるようなシステムができていっているかどうかですよ。今言われることはざつと考えるけど、この場合は甘かった、この場合は厳しかったというようなことだってあり得るわけだし、そこが仕組みとして、きちっとなっているかどうかということですね。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

仕組みとしてできているかということなんですけれども、現在、そのようなきちっとした判断基準というものは持っておりません。当然、担当課から私どもはヒアリングをして、予算をつける、つけないの判断をするわけです。そういった中で、今ほど申し上げた点をお互いにしっかりと協議しながら、私どもは予算づけをしていくと、あるいは予算づけをしないという判断をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私が言ってるのは、その判断に対する説得力の問題なんです。市民の税金を使って外部委託していくというものについて、やっぱり説得力がなきゃいかん。

1つ聞きますが、内部監査をやってますよね。内部監査で外部委託の適否についてチェックしてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

田鹿総務課長。〔総務課長田鹿茂樹君登壇〕..

○総務課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

内部監査の中で、外部委託の部分についてチェックをしているかということですが、総

合的には、すべての課において外部委託についてのチェックはしておりません。ただ、部分的には、そういうものを項目に挙げながら、チェックする対象課を挙げてあっている部分もございます。

以上でございます。

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

やっぱり判断基準を明確にして、そこは厳格に適用することによって、外部委託が安易にならないというメリットが出てくるんだと思うんですね。

民間活力の有効活用によって、人員削減のカバーができる。行革をやってますから、人員は削減しろ、外部委託はなくせよというのは、これは矛盾した話なんです。だけど外部委託を、有効にやっつけていかなきゃいけない。安易にしちゃいけないし、やるものについては有効にあっつけていかなきゃいけないというのが、今の外部委託に対する考え方で必要なところだと思いますね。

要するに外部委託の場合であっても、糸魚川市の担当者がそこに深くかかわっていくということが大事ですし、相手はそれぞれの部門の専門家ですから、市の職員も本来、担当課についてはそうであるべきなんですけど、これは専門家だからって遠慮することはない。市の職員側は、糸魚川市のプロであるということを忘れてはならない。そういう形で、いろいろな段階のチェックをやっていかなきゃいけないというんですが、ともすると、やはり専門家に押された形の間審査になっているんじゃないかと思うんですが、そういうことはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

お答えします。

今ほど業者の言いなりになっているんじゃないかというような心配があるのではないかということだと思っただけですけども、それにはやはり私ども職員が、ある程度、基礎的な知識をしっかりと身につけて、自分が欲しいという目的、あるいは成果、それにずれがないかどうか。きちっと業者から出てくる報告、それは中間であろうと最後の結果であろうと、きちっとしたそういう自分が欲しいものが何であるかを、やっぱりしっかりととらえる力が必要であると思っております。そしてきちっとそういうものを仕様書、あるいは契約書に生かして、そういった仕様書、契約書を1つずつチェックして、業者がきちっとした成果を上げてきてるのかどうかをチェックする機能が必要だということで、それが一番大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

考え方は、まさにそのとおりですよ。職員にその力量が必要です。そういうことも含めて、評価するシステムが必要だということを言ってるわけですけど。

今言われた担当者の力量に、差があるんです。担当者が、例えばここに常駐しなきゃいけないというけど、どの担当者が常駐するかによって全然結果が違う、これは当たり前のことですよ。そこで、組織としての力が必要になってくると。いい指導ができなかったから、こういう計画しかできなかったというものを受け取ってしまったんでは、どうしようもないわけですね。

ここには、組織の責任があるということになります。チェックの段階を流してしまわないような仕組みが、必要だということになってくる。仕組みというのは、面倒な仕組みのことを言ってるんじゃないですよ。チェックの段階をつくっていく。内部監査もそのとおりですが、まず、部署の中でのチェックの仕組みというのが、必要になってくるということだと思っんです。担当者によって、ばらつきが出ないようなものがシステムと言うんです。考え方を持っているだけじゃだめなんですね。そのシステムをつくっていかないといけないと思っんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

なかなか外部委託に対するマニュアルというのは、いろいろな計画によって内容にいろいろな違いがあるので、なかなか計画をチェックするマニュアルづくりというのは、難しいと思っております。

それで、やはり担当者任せではなく、今、私どもができる組織としては、そこの中には係長がいるわけですし、また課長補佐、課長がいるわけです。そういった経験豊富な役職者がやはり担当者と話しながら、これで成果に間違いがないのかどうか。そういうチェックをする機能が十分発揮されるよう、私どもとしては指導していかなきゃならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その経験豊富な上司にも差があるんですよ、これは当たり前なことですよ、だから仕組みをつくりなさい。例えば外部委託するんなら、外部委託計画というのをつくって、例えば何々計画についてと、この段階と、この段階と、この段階で打ち合わせをしていきます。この段階では、これとこれをチェックしますって、これなんか簡単にできるじゃないですか。そういうものをつくって、チェックをしていくんだというのがシステムですよ。つくらなきゃいけないということを、すればいいんです。こういう考え方でチェックしていきますよという考え方だけでは、やらんでも済むし、やる人は徹底的にやるだろうしという、差が出るというところを言ってるわけですよ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕

○総務部長(織田義夫君)

お答え申し上げます。

外部委託の関係でございますけども、昨年の反省点を踏まえまして、昨年から成果品は所管の課でなくて、それぞれ企画財政課を通じまして理事者のほうへも概要をきちんと、最終的なものを報告しようということで、一部システムを変えさせてもらいました。

そういったことでありますけども、今現在、途中の段階のチェックというのは各課任せであります。そういったことで、今、チェックシステムをきちんとせよということでありますので、その辺につきまして検討させてもらいますし、また、来年の内部監査のときには、この辺の外部委託した成果品等について、きちんとチェックを内部監査でやろうということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

成果品は理事者に報告して、理事者がそこでまた考え方というのはあると思うんですけど、その段階では、多分遅いんですよ。もう受け取ってしまったような状態になっているということですから、理事者に報告するのも受け取らない前の段階で、再修正の効く段階でやらなきゃいけないというようなことだと思います。

委託してできてきた計画を、実施してみた段階でのまた評価というのもあると思うんですよ。これはこうやってあってみただけど、どうも不十分な計画だったと。そこに対する今度は評価が、外部委託先への評価になって次に生きてくると、または、自分たちのノウハウに生きてくるとというのが

あると思うんですね。これも必要だと思いますけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君..)

お答えを申し上げます。

先ほど申しましたとおり成果品について、実際、事業を実施した段階での評価というの、当然必要かということでもあります。所管課のほうもやってみて、ああ、こうだというような反省点も、当然あるんじゃないなというふうに考えております。

先ほど申しましたとおり来年の内部監査で、所管課と内部監査のほうとその辺についてももう一度意見交換をし、チェックをしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

計画というのは、どこの自治体も似たようなものをつくってますから、ほかの自治体に出したものを、焼き直して出してきたんじゃないかというようなことがありますよね。また職員がつくっても、そういうものになりがちなんですよ。どこかのを引っ張ってきて、糸魚川バージョンに書きかえたとなる。職員がつくっても、そうなりがちだということを含めて、チェックしていくというシステムが必要だということなので、ぜひ前向きにお願いします。

それでは、新幹線に関連した駅周辺の活性化について伺います。

東洋大学の石井教授は、糸魚川市にとって大きなチャンスだというふうに言ってくれてます。しかし、全国の新幹線沿線の実態を見ると、相当に厳しいですよ。成功例のほうが少ないと思います。厳しいチャンス、厳しいがチャンスである。これはものにできなければ、没落するという響鐘をはらんでいるということですね。

糸魚川はそれプラス、世界ジオパーク認定という非常にプラス要素があるんですが、これを含めて大きなチャンスであると言えますし、ということは二度とないチャンスだと。求められるものは、これまでと違うんですよ、一歩踏み込んだ取り組みが必要になってくる。要するに、新幹線についていろいろ考えてきたところにジオパークがプラスされたことで、求められる取り組みが大きく変

わっているというのが、今の現状だと思います。これについては意識改革がやっぱり必要ですよ、庁内全体の。担当部署がこれまでと同じ意識で、自分の担当部署のことだけ考えていたんではだめだと。

例えば今のセクションでいうと都市整備課が、ジオパークのことも考えて、駅周辺整備のことも考えていくということでないだめだと思うんですが、この辺の取り組みというのは、十分に庁内検討されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕..

○企画財政課長(吉岡正史君..)

今、来年に向けて後期の基本計画をつくっております。そういった中で、今、新幹線の開通が平成26年度末に予定されているということで、大きな関心事の1つになっております。そのためのいろいろな施策、そういったものについて庁内からいろいろ委員を選びまして、今現在検討しております。そういった中で、来年、各課だけの考え方ではなく、将来に向けた市全体としてどうあるべきかといったものを、今検討している最中でございますので、結果として連携したといいますか、実施に向けての計画になると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。..

○13番(伊藤文博君)

駅だけつくってもというのが、全国の失敗例ですよ。糸魚川市はどうかというと、駅舎と駅の南北広場は市で考えていきますが、あとは民間任せということはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

駅周辺にでも道路とか連絡通路、自由通路とか、市でなければならないものについては、当然、

市が行わなければなりません。しかしながら、市だけですべての周辺の整備、あるいは、にぎわいづくりといったものはできるわけがありません。当然、民間さんからもお願いしなきゃなりません。その民間さんを、いかに投資・整備に力を入れていただくためにはどうしたらいいかという、情報の交換も必要ですし、場合によっては、補助ということを考えていかなければなりませんし、そういった面で十分民間さんと話をしながら、駅周辺づくりは必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

例えば駅前商店街の新幹線開通後をにらんだ問題点というのは、これは新しい課題ではなくて、もともと持っている課題、問題が大きいと思うんですよね。

全国各地の駅前が寂れて、郊外の大型店に押されているという現象については、これは糸魚川ももともと持っている問題だということです。これまでの課題が今後の課題ということで、何も変わってない。この問題を、新幹線開通という大きな節目に向かって真正面からとらえて、根本的解決を図っていかなくちゃいけないというんですが、この点についてはどう考えていますか。..

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長金子裕彦君登壇〕..

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

商業の活性化につきましては議員ご指摘のとおり、どこの地域においても既存の商店街がだんだん廃れていって、郊外店のほうへ引っ張られていっておるといような状況がございます。

そういう中で、当市の新幹線開業に向けて駅周辺の整備、商店街の活性化を進めたいということで、前からいろんな取り組みを民間の皆さん、あるいは商工会議所の皆さんと協議をしながら進めてきております。

1つにはハード面の整備、それからもう1つは、にぎわいづくりの活動のソフト面の活性化促進が必要だと思っております。ハード面の整備につきましては、今までの中でも話をしておりますように、まちづくりの交付金事業等で市道等のバリアフリーの整備を実施してきておりますし、今後は県道糸魚川駅停車場線の電線の地中化、あわせて駅前のアーケードの改修ということでの計画をいたしております。それについては市としても支援をして、一緒になって取り組んでいきたいという

こととさせていただきます。

また、ソフト面につきましては、駅北まちづくり実行委員会が取り組みを進めてきていただいております。その活動を引き継いでおります糸魚川街なか魅力アップ推進会議の活動を市としても支援、あるいは協力をしながら進めております。

また、商店街の皆さんが実施されております活性化のイベントについても市で助成をして取り組んでおりますし、また、その内容等についても見直しを進めながら、より一層効果のあるものになるように取り組みをさせていただいております。

また、空き店舗の活用の創業支援という面での取り組みをしております。また、今年度の夏ごろには、いわゆる駅周辺に5つの商店街がございますが、その皆さんで個店の魅力アップ女性の会というのを組織されて、それぞれのお店において、どういうふうに魅力を発信していけば商店街全体として、誘客につながっていくのかというようなことでの取り組みをされております。そんな面についても私どもも一緒になって支援をし、あるいはご協力できるところを協力して取り組んでおるところでございます。これらの取り組みを一体となつて、今後の新幹線開業に向けた取り組みを推進してまいりたいと、かように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今いろいろと挙げられたものは、先ほど私が言った全国の駅前が抱えている問題の抜本的対策にはならないですよ。ソフト面で頑張っても、商店街が頑張っても、いろいろあるんですけど、やはり各種の駅前商店街の抱えている問題というのは、車社会に全く対応できてないという問題がある。それには、やはりまちの構成を、道路も含めてどこかで抜本的に変えていかないと、解決ができない問題だと思うんですね。

現在、駅、駅前広場は市として検討する。そして駅前通りはアーケードを含め商店街、または商店街のみが検討するというような方針になっている。アーケードのリニューアルと電線の地中化だけで、駅前商店街の活性化が図れるかどうか、市街地の構成としてですよ。ソフト面の話は別にしますということはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長金子裕彦君登壇〕

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

駅周辺の整備につきましては、いろいろなまちの取り組みがあろうかと思っておりますが、当市の場合には既に一定の市街地が形成されておるところに、新幹線の駅が併設して置かれるというような特徴があるわけがございますので、特に駅北の中心商店街のゾーンにおきましては、現在のまち並みを生かしながら、先ほど申し上げましたソフト事業と組み合わせた中で、整備をしていきたいということで考えております。全体的には、駅周辺整備構想の中で示された内容に基づいて、全体的なハード面については都市整備課を中心にして関係する課が連携をしながら、あるいは民間の皆さんとの協力を得ながら進めさせていただいておりますし、今後もそのような中で課題の解決に取り組んでいきたいと思っております。

○議長(倉又稔君)

伊藤議員の質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩いたします。

再開を午後1時といたします。

(午後0時03分休憩)

(午後1時00分開議...)

○議長(倉又稔君)

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり...〕

○議長(倉又稔君...)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

新幹線とジオパークによる活性化というのは、市民全体の大きな願いですよね。このことからいって商店街が抱える問題点は商店街だけの問題でなくて、糸魚川市全体の問題としてとらえて取り組んでいかなきゃいけない。この商店街だけの問題ではないということについてちょっと確認したいんですが、考え方をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君...)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長金子裕彦君登壇〕...

○商工農林水産課長(金子裕彦君..)

お答えいたします。

ジオパークを絡めて商店街の活性化づくりという観点から見ますと、一商店街だけの問題ではないというのは、議員がおっしゃるとおりだと思います。いろんな絡みが産業間、あるいはまちづくり、あるいはその他の市民の皆さんの活動を含めた中でのかかわりが出てまいりますので、それらを複合的に重ね合わせた中で商店街の皆さんからも頑張っていて、活性化につながっていくものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君..)

新上越駅の周辺整備計画を見ると、糸魚川市に比較していい計画だなと思うんですね。ところが疑問が1つあります。脇野田地域の地主さんを中心にして意見を聞いて、大規模店舗じゃなくて、地域に根づいた商店街をとということで区画を計画されたんだそうです。このことが、いいか悪いかじゃなくて、その小規模だということが、いいか悪いかじゃなくて、決定する過程に疑問がある。

既存の核となっているインター周辺だとか、いろいろな地域との兼ね合いによって、どこを発展させていくかという問題はあるんですが、小さなエリアの地元とだけ協議して決められることじゃないはずなんです、上越市にとっても新幹線駅周辺整備というのは。

糸魚川駅前商店街についても同じことです。糸魚川駅前商店街について、市民を巻き込んで考える枠組みについて、どうあるべきだと考えるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

確かに駅前商店街、これから新幹線開通を一応踏みまして新幹線とジオパーク、これからは糸魚川の将来にとって極めて大事な課題ということで受け取っております。したがって、新幹線、ジオパーク、これらを踏まえて後期基本計画、総合計画の中でどのようにするかということで考えているところでありますけども、ただ、商店街につきまして、抜本的な対策はなかなかないというのが実態であります。

先ほど商工農林水産課長も申しましたけども、それらについては抜本的というよりも、今できるものとしてということで対策をしてるところでありますけども、まだ全国的にも中心市街地の商店街等につきましては、やはり特効薬とか即効薬がないというのが実態であります。そういった点を踏まえて、糸魚川全体として何ができるかということで、一応これから検討してまいりたいと思っております。

それと今、新幹線の駅と周辺整備につきましては、先ほど市長が申しましたとおり平成13年、14年に基本計画を立てまして、それに沿って今現在やってきたというところであります。そういったことで、大きな基本計画の中でそれぞれ駅と駅周辺整備、それから道路関係も含めまして計画をしたものを、今、順次実施をしてるというところであります。ただ、今後の糸魚川市の将来にとって、極めて大事な今回の商店街等を一応踏まえまして、もう少しきちんとした計画を立てたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

さっき言ったように13年の基本構想では、もう不十分になってきてるわけですよ。ジオパークの問題も絡んできて、それからほかの新幹線沿線の状況も踏まえた中で、見直していかなきゃいけないということですね。

まず、行政が大きな方針を示して、それに従って個別の問題に対して地元が検討するという構図が必要でしょう。現在の状況は、今、部長が言われたように抜本的対策と言われる大きな方針は何もない、ランドデザインが描かれない。これを描いて広く理解されなければ、民間は何も検討してみようがないんですよ。枝葉のところばかりあっても、幹の問題がしっかりしてなかったらだめだということですね。アーケードの改築も電線地中化も必要な事業ですよ。これはしっかり国や県の補助を取りつけて実施してもらいたいと思います。しかし、これは活性化の抜本対策ではないんですね。

今、後期の計画の中で盛り込んでいくと言いましたが、しっかりとした絵を描いていただきたい。ランドデザインを描いて、本格的に取り組んでいただきたいということなんですが、そのランドデザインという考え方は、だれでもわかるようなあらかし方をすることですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君..)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

グランドデザインということでもありますけども、それについては平成14年度につくった駅周辺整備の基本計画、これは1つのグランドデザインということで、今まで一応この計画について実施をするということであって来たということと考えております。

ただ、これについてまだ今現在、26年に新幹線が開通するという日前になりまして、もう少し見直しをしなければならんかということで、今検討したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

議長も笑っとるじゃないですか。その平成14年のものじゃだめで、それで今、抜本的対策が盛り込まれていないようなものをグランドデザインで、それに従ってやってますって言ったって、今、市民サイドが、この新幹線開通に向けてジオパークを活用した活性化を図りたい、それに対していろんなものを検討するということに対して、何の参考にもならないじゃないですか。みずから、さっき抜本的対策はないと言ったでしょう。だから、そこを盛り込んでいくようなグランドデザインを、描いてほしいということ言ってるんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

本間副市長。〔副市長本間政一君登壇〕..

○副市長(本間政一君)

今、部長等が話をしましたように、13年、14年に構想計画、あるいは実施計画をつくって、それはどちらかというとハード面を中心とした考え方で進んできたんじゃないかなというふうに思っています。今、伊藤議員が言われましたように、この新幹線を生かしたまちづくりはどうかということです。昨年から取り組んでおりますジオパークを核として、さらにそれらをまちづくりにどうやってつなげていくかということが、当市の大きな課題だと思っております。これらについては委員会の中でも早く構想、あるいはデザインを示しなさいということ言われてきたわけでありまし

て、そこら辺はしっかり、早急に詰めなきゃならんというふうに思っております。

やはり当面はジオパークということが核になっておりますが、今、若手の方がブラック焼きそば、あるいは南蛮エビ等も売り込んで、それらも新幹線を見据えた核の1つなんだろうと思っておりますが、そういう機運を大事にしながら、また行政としてもそういうものを取り込んだ形で、一定のデザイン化を図らなきゃならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

さっきちょっと触れましたけど、駅前商店街の抱える問題点は何かと。個々の商店の問題は別にして、まちの形成として、やはり車社会であることに対応できてないんですよ。新幹線が開通しても、車社会であることには変わらないんです。車社会を意識してまちづくりをしていかなきゃいけない、施策を講じていかなければいけないんです。

佐久平駅が全国でも名高い成功例に挙げられるのは、車社会に配慮した計画を実行したことが大きな要因なんですよ。田んぼの真ん中につくったわけですから、何でもできたということはあるんですけど、ここに今の糸魚川駅周辺の抜本的問題点も含まれているわけです。だとすれば、今、上越もいろいろ疑問点はあるにしても、私たちが聞いた話だと150戸もの住宅を動かして、周辺開発をするということなんだそうですよ。だから佐久平も幹線道路を動かして、駅をぐるぐると囲むように道路配備して、駅が孤立しないように配慮しているということなんですね。車社会に対応できるようなまちづくりをしない限りは、駅前商店街は絶対よくならないということが1つ言えるということを考えてどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

北陸新幹線の開業を目指して、この糸魚川駅周辺整備構想というのがつくられたわけでございまして、そしてそれを使って活性化を図っていこうということで進められてきたことは、もう周知のとおりであるわけでありまして。それに向かって、今進めてまいっております。中央大通り線も全く

そのとおりであるわけでございます。

そういう中で、じゃあ活性化は何を使おうかというのが大きな課題であったわけでございます。特にソフト的な部分になるわけでございます。それが、このジオパークという形で、今少し具体的になってまいりました。それに向かって、じゃあ今までの基本構想でいいのかというところは、今、議員ご指摘のとおりだろうと思っておるわけでありまして。その辺をまた再度、これは全市に波及するジオパークでございますので、非常に局部的なものではないわけでございますので、そういったところもあわせながら私は進めていきたいと思っておるわけございまして、これもまたご指摘のとおり、今までの基本構想でいいのかというところもあわせながら、再構想的なチェックを図っていかなくてはいけないんだらうと思っております。またこれも今、それについても基本的な部分については、やはり官民一体となってこれはつくり上げていかなくちゃいけない。

そして以前から、まちの活性化はにぎわいづくりだろうということで、地元の皆様方が一生懸命努力されておられるわけございまして、その辺の手法も含めながらどういうものかいいのかというところを、長い時間を経過してるわけございまして、そういったところを新たな今ある形、そしてまたそれに当てはまらないものは、また枠組みをつくらなくてはいけないんだらうと私は思つとる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

駅の南側に視点を移して質問します。

駅南線の東西両サイドですね。これはだれが考えても商業エリアとなるべき本来は地区だと思えます。現在の様子では、住宅が密集していて開発の余地はない。ここに対して商店街化していくという計画が、なぜできなかったのかについてお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕..

○都市整備課長(金子晴彦君..)

新幹線の周辺整備については先ほど市長が申しましたように、構想に基づいてあってるわけで、そういう中で基本的には、これも何度もお答えしてますが、当市は新幹線駅は既設駅併設という中で、北については商業地域ということで現在のものを利用する上で、それに副次的なものをつけ加

えていくと。

また、南口につきましても、これはその中で行政文化拠点というふうな形で位置づけて、ここにつきましては相当早い時期に、今で言う区画整理とは違いますけど住宅整備が行われて、そういう中で、ここについては既存の住宅地ゾーンという、こういうことで位置づけて、基本的に大規模な開発でなくて、部分的な環境改善等を行って安全性、快適性の向上を図りたいと。

そういう中では駅南線を1本入れまして、それに伴う例えば取りつけ市道とか、そういう部分的な改良は今計画をしておりますが、その辺の住宅の皆さんの意向等をお聞きすると、ここについてはそういう行政文化拠点という中で、やはり住宅地を中心にということで二次的な大規模開発は望まれてないという中で、そういう中でもできるところは都市計画道路を入れて、それだけでも数十件の移転もかかわっておりますし、そういう形で、この方針に沿って進めてきたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕…

○議長(倉又稔君…)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君…)

そこがさっき言った地域だけ、その地主さんたちだけの問題じゃなくて、糸魚川市全体の問題として新幹線駅周辺を考えていくという観点が欠如してつくられた構想だということが、そこにあらわれているわけですよ。

成功してるところは駅だけつくったんじゃないで、その周辺のことをしっかり考えて市全体の問題としてとらえているというところで、その観点がやっぱりちょっと欠如したんでしょうね。

当然地主さんの意向だとか、そこに住まわれている人たちの意向は大事ですけど、それを超える観点でとらえて構想を練っていかなきゃいけない。それがなかったら、市全体をだれが考えるんだという話になりますよね。

今は駅と中央大通り線の連絡道路になってしまっている。中央大通り線が活性化していったときに、駅周辺は寂れていて、やっぱり郊外型の糸魚川市の形成になるという今の構想のままでいいかどうかということですよ。これはどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

糸魚川市全体をにらんだ形にはなっていないのだというのは、それはそれでおっしゃるとおりなんですけど、それにはやはりそこに住んでいる皆さんの意向というの、相当大きなかわりがあると。そういう中で、それと切り離しては考えられませんが、中央大通り線というのは、これは北陸本線よりも南側の糸魚川地域の全体のいわゆる幹線道路という形での位置づけで、それをいち早くといいますか、昭和63年から今、最終的には新幹線の開業まで、4,000メートルちょっとのうち300メートルを残す形で、本当はもう少し広い地域といいますけど、この中央大通り線の広がりの中で、その中央大通り線のどこまでを郊外型というのか、これもまた意見とか定義の仕方にもよるかと思われるんですけども、今度は駅南線についてはもう限られた土地で、そういう住民の意向もありますので、逆に中央大通り線のある程度、新幹線の位置づけに近いほう、要するに駅に近いほうは、そういう利用等も含めた中でこれを核にして、今度はもう少し広い周囲の発展というものを、考えていかんなんらんでないかなと思っております。

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

大変苦しいところです、課長の答弁も。そしたら駅南線が1つ発展していったとすれば、中央大通り線とつながっていて、駅からのにぎわいになったというところで1つ遮断されて、別のところでできているという構図が、やっぱり今問題になってくるわけですよ。ということで、そういうふうを考えていくと、13年につくられた構想では新幹線開通後、ジオパークを利用した活性化ということで考えたときに、駅周辺に関しては非常にやっぱり心配なところがある。

今、実際に商工会議所の人話を聞いても、そこで若い人たちの話を聞いても、ランドデザインがないから自分たちが検討するには限界があると。全体がどうなっていくのかということがないだけで、すごい一生懸命あがいているんだけど、どこへ向かって行きやいいのかというのが、よくわからないという状況なんです。だから今の現状のことをしっかり認識した中で、これからどうしていくのかというところに、しっかり目を向けていかなければいけないというのが、今の段階だと思うんですね。今までのことが悪いとか何とかということをお前は言いたいんじゃないで、これからどうするのというところですよ。ですからランドデザインを描いていただきたいという話をしているんで、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕..

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

伊藤議員ご指摘のグランドデザイン、これにつきましては駅周辺整備構想の中で位置づけてきたと思っております。その理念的には、今ご指摘の点も出ております。中央大通り線がこれだけ活力が見えるような状況は、そのときあったかどうか。そうでなくて、ただ要するにバイパス的に南も必要だろうという形でつなげていた感もなきにしもあらずであるわけでありまして、そういう1つの変化もあらわれております。

しかし、この基本構想の中においては、やはり中心商店街の活性化をそこでしていこうという形で進められているわけでありまして。また、そういう1つの理念に基づいて、つくられてきておるわけでございますので、やはり計画行政という形の中においては、その基本を計画の中で進めていかなくてはいけないと思っておりますし、その中で部分的な修正も、これはあつてしかるべきだと。

そういう中において、今ほども説明させていただきましたが、新たな切り口としては市内全域に、合併した青海地域も能生地域も含めるわけでありまして、振興的な理念的な1つの考え方として、ジオパークが使えるということになってくると、その辺も含めてまた再度、そういった検討なりをしても私はいいと思っておりますが、しかし今はまだそういった1つの中におきましては、基本構想を位置づける中で進めてきておるわけでございますし、新幹線の開業を見据えた中で今進めているわけでありまして。一時はやはりその中でも、住民の皆様方や全体の中で論議された部分でもあるわけでありまして、そう簡単には変えられない部分でもあろうと思っております。

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

計画の見直しは臆することないと思うんですね。それをどういう枠組みで論議していくかということがやっぱり大事なことで、先ほどちょっと市民を巻き込んで考える枠組みという話をしたんですけど、それは一部の地域の人でなくて全市的に、糸魚川市全体の市民を入れて、あるメンバーを寄せるということなんでしようけど、今、後期の計画の中に盛り込むという話をしていますが、その段階でこの問題だけ、しっかりもう一度煮詰めていくということが必要になってくると思うんですが、それについて考えはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君..)

お答えを申し上げます。

先ほど市長も申しましたとおり部分的な手直しも含めまして、その辺についてはもう一度、後期総合計画策定の中で検討させてもらいたいと思っております。

○13番(伊藤文博君)

いや、答えてないよ。市民を巻き込んだと言ったでしょう。その枠組みについてどう考えるかと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕..

○総務部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

市民を巻き込んでということではありますが、その辺も含めまして、そういった方向を少し検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

後期の計画の中に盛り込むと言うんですけど、別枠でやっぱりグランドデザインを示してもらいたいと思うんですよ、その計画内容を生かした。これはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕..

○議長(倉又稔君..)

織田総務部長。〔総務部長織田義夫君登壇〕

○総務部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

糸魚川駅周辺もそうですし、それからジオパークの活用も含めまして、全市的な観点で検討した

いと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君..)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

両問題について職員のモチベーションを高めて、市民の熱意をあおって、いいものにしていただきたいとお願いして、終わります。

ありがとうございました。

○議長(倉又稔君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。